

平成27年12月14日(月)

老球の細道187

韓国・仁川（いんちョン）の思い出

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日BS放送で韓国の空と海の玄関口「仁川（いんちョン）」の番組が放映されていた。20年前に訪れたこの仁川には特別な思い出があった。なぜ仁川に行くようになったのか。これにはドラマがあり、人と人との出会いの妙があった。

1年前に郡山で「日中韓3国対抗試合」があり、福島県少年男女チームもそこに参加させてもらった。日本、中国、韓国の高校生のNO1チームと福島県選抜チームが試合をした。結果は全敗であったが、韓国仁川の「仁聖学園」チームのシュート力には度肝を抜かれた。当時の3ポイントラインより1メートル以上離れたところから高確率で決める。

磐梯熱海で行われた懇親会の後、韓国チームスタッフの部屋を訪ねた。どのような練習をすればあのように遠くからシュートが入るようになるのかを知りたかった。その後、東京実践学園で行われた仁聖学園と実践学園、実業団チームとの試合も見に行った。

実践学園の体育館では思いがけない人がいた。会津坂下町出身でバスケットボール東京五輪代表の江川嘉孝氏である。会津高校がらみで多少の面識もあったので挨拶をした。実践学園バスケットボール部の技術顧問をしているとのことであった。

昼休みに近くの食堂でスタッフの昼食会が開かれ、私もなぜか招待された。そこにはチームスタッフとは関係ない年長の韓国人の方が同席していた。名前も顔もよくわからない人だったが、私に韓国のバスケットボール事情を色々話してくれた。話の流れで「百聞は一見に如かず、今度韓国に来なさい」と勧められ、流れのままに「ぜひ行きます」などと応えてしまった。どうせ社交辞令だろうと思い、安易に返事をしてしまったのである。

数日経って、当時の勤務校喜多方女子高校の事務室に韓国から国際電話が私のところに入った。事務室は騒然としたらしい。電話をよこしたのは「李宇載」さん。韓国に来なさいと勧めてくれたあの人だ。後でわかったことであるが、全日本女子バスケットチーム、シャンソン化粧品、共同石油、など当時の日本の一流チームの技術顧問などを歴任した韓国の超有名コーチであった。その後日本でたくさんのバスケットボール著書を書いている。

電話に出たら、「いつ韓国に来るのか？」という催促の電話だった。私は突然の国際電話であわててしまい、考えもせずに「春休みに行きます」などと返事をした。幸か不幸か本当に韓国までバスケットボールの研修に行くことになってしまった。1人で行くにはもったいないので、県選抜チームのマネージャーをしていた教え子の杉晋一君と当時田島高校のコーチだった渡邊拓也先生（現福島西高校）を誘って韓国珍道中とあいなった。

当時は今ほどではないが南北の緊張状態と反日感情もあり、色々周囲の人たちから心配されたが、ソウルから車で30分くらい離れた仁川の街並みは歴史を感じさせ、関係者は皆温かく対応してくれた。仁聖学園の練習見学も、日本から来たということで、バスケットボール部は授業免除で練習を見せてくれた。夜は夜で毎晩主催者が変わるレセプションを開いていただき、美味しい料理を食べ、真露を飲みながらバスケットボールを熱く語った。BS放送を見ながら懐かしく思い出された。あの頃の人たちは皆元気だろうか。

教を請いに踏み出した1歩が貴重な出会いを作り、外国まで足を運びきっかけを作ってくれた。まず動くこと、そのために日々燃えること、チャンスの女神が後ろ髪を引く。